

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治



“テロリストに乗っ取られたJR東日本の真実”

「マングローブ」ダイジェスト版 第11回

あの「週刊現代」連載記事が【マングローブ】という本になった。本紙は筆者（西岡研介氏）の了解を得て、『謎に包まれた非合法集団とJR東日本の抜き差しならぬ関係』をダイジェスト版として紹介することとした。

ダイヤをズタズタにしてやる

「俺は（JR東日本）東京支社なんてチンピラを問題にしていない。松田出てこい！大塚出てこい！俺に文句があるなら堂々と出てこい！」2002年7月10日、箱根で催されたJR東労組の「本部役員慰労会」で、「鬼」と呼ばれた男はこう吼えたという。《 詳細についてはユニオン・EYE 144号に掲載》 …つまり松崎は、国鉄時代に世論の猛反発を買った順法闘争を復活させ、「山手線をはじめとする首都圏のダイヤをズタズタにしてやる」と、JR東日本経営陣を恫喝したわけである。…

「松崎の言う『順法闘争』は現実的に可能なんです。もちろん東労組という組織としては無理だとしても、ゴリゴリの活動家が数人いれば十分、ダイヤを乱すことができる仕組みになってますから。極端な話、松崎の特命を受けた活動家が防護無線を一回、発報してしまえばいいんですよ。それだけで山手線は全部止まりますから。回復するまで三分はかかる。そんな活動家が五人、順番に防護無線を発報していけば、その日の山手線のダイヤはズタズタになります。実はJR東日本経営陣が最も恐れているのが、この松崎直轄の『順法闘争』なんです。だから会社は松崎が吼えると大騒ぎするんです」（阿部克幸氏 = 当時、企画局長）

JR東労組に潜む、少数精鋭の革マル派系活動家による「順法闘争」。これが松崎の最大の武器なのだ。そしてこの”最終兵器”をチラつかせ、恫喝することによって、彼はJR東日本を支配してきたのである。だが、当然のことながら、この松崎に対する阿部氏の発言は、JR東労組の絶対権力者の逆鱗に触れた。「その四日後に聞かれた東京地本定期大会の懇親会で、松崎は『阿部の小僧っ子は順法闘争を否定しただって ・ 阿部の野郎許さねえ』、『チンピラ阿部め!』と口汚く罵り、その場に居合わせた東京地本執行部の面々に『東京は順法闘争できるよな!』と問いかけたのです。それに対し、当時東京地本の委員長だった石川尚吾（現JR東労組委員長）は『でっ...できます』と答えたそうです」（前出・元JR東労組幹部）

【マングローブ（講談社）P.132～P.136】